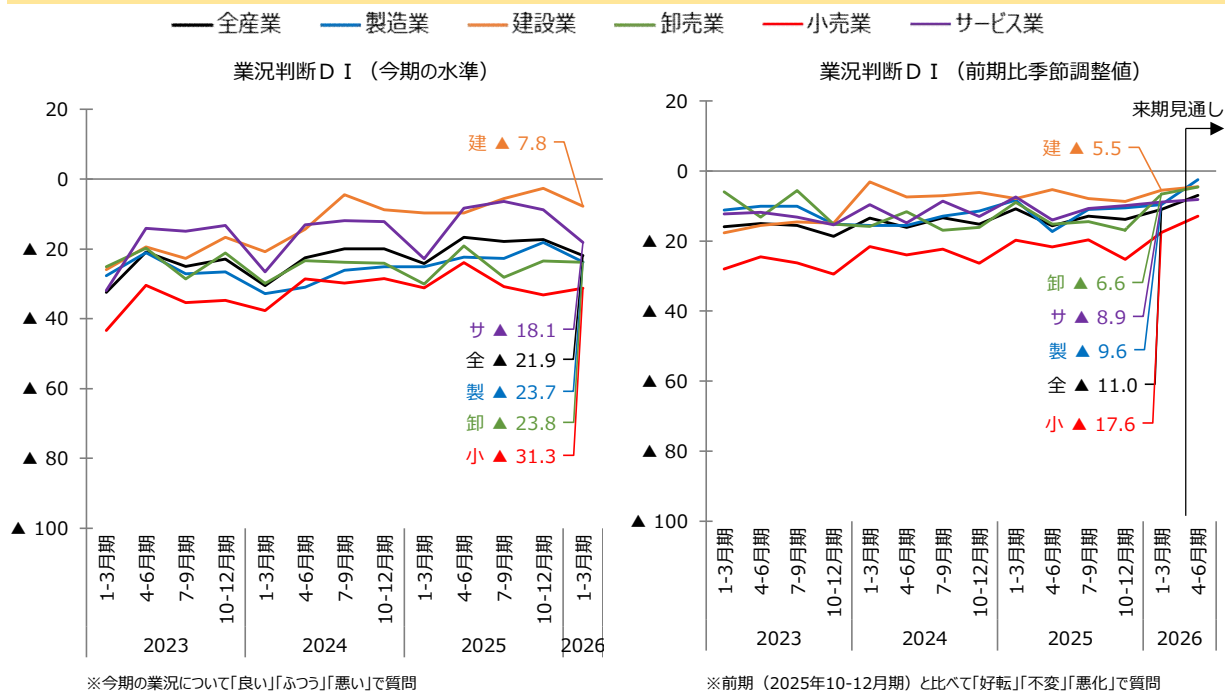


第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 中部



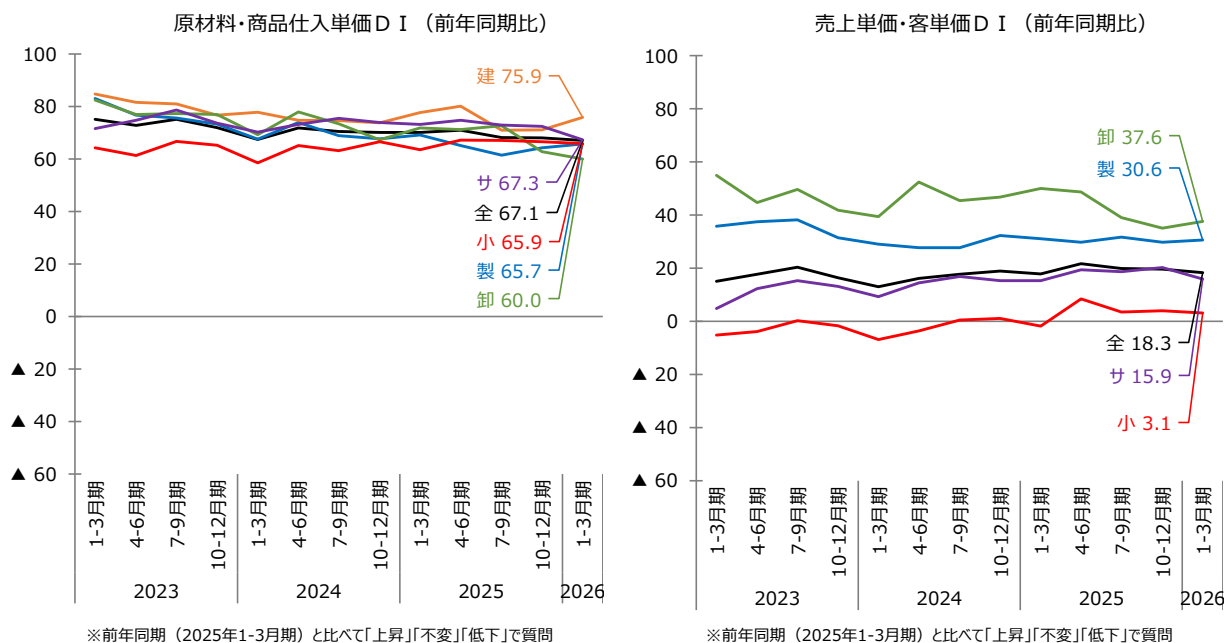
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より4.6ポイント減の▲21.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、サービス業、製造業、建設業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の67.1と3期連続して低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の18.3と3期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、中部：2,289企業

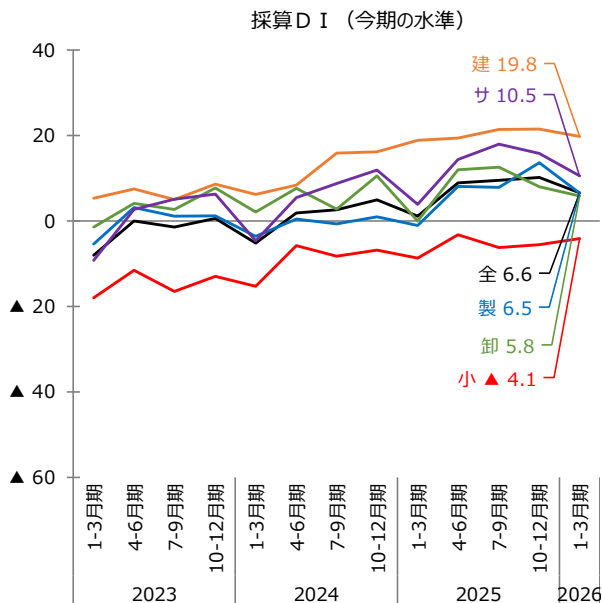
※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 中部



3. 採算

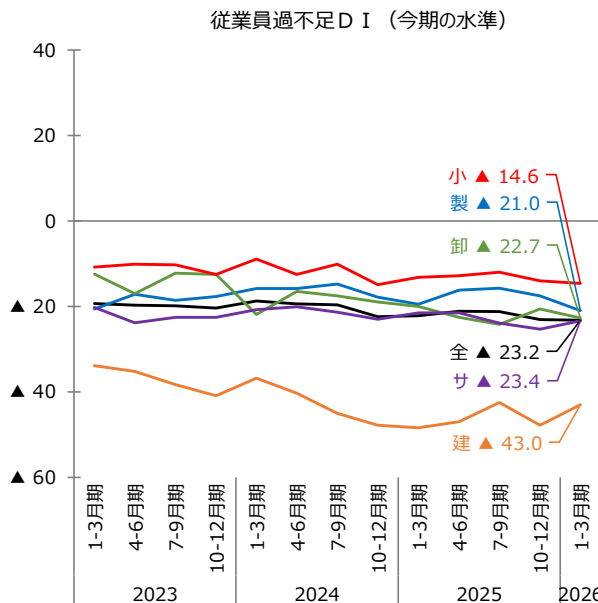
採算DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の6.6と4期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、製造業、サービス業、卸売業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲23.2と3期連続して低下した。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	利益率確保し、採算も合っている。ロットが少ないがために余分な製品も同時生産するため製品在庫が増えている。従来の製品は需要が少なく、大幅に生産高は下がっている。補修用タイル重視の方向にかじを取る。	製造業 陶磁器製タイル製造業
	能登半島地震に関係した工場・店舗等の復旧・改修工事はほぼ落ち着き始めている。また、災害復興住宅から退去するための新築住宅建設もまだまだこれからではあるが、一時期の煩雑な状況ではない。	建設業 板金工事業
	単価の安いものに流れ、高付加価値の商品の動きが悪くなっている。低価格、多様性を謳った微妙な化粧品が急激に増えたことで、嗜好品にかかる金額が下がってきているように感じる。	卸売業 化粧品卸売業
	例年、豪雪の影響により来店客数が大きく変動するため、天候状況を見据えながら仕入量を柔軟に調整している。コーヒー豆の仕入価格は継続的に上昇しているものの、適切に価格転嫁を行っており、影響はない。	小売業 食料品スーパーマーケット
	大型店舗の参入や価格帯の低い店舗が参入してきており、地域の高齢化もあって、顧客が減少している。	サービス業 美容業
見通し	受注、引合いともに弱く、先行きは、業況悪化が懸念される。中国品との競合、先行き不透明感から人件費他コストアップ分の価格転嫁が出来ていない。	製造業 その他の織物業
	人材不足のため、経営・営業・現場での管理者（指導者）が不足で管理指導ができないため、先が見通せず、心配である。	建設業 電気配線工事業
	客先の開拓は進んでいる。海外向け引合いの増加。国内需要は低調であるが、徐々に好転すると考える。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	近隣のガソリンスタンドが新装開店するので、出荷数量が落ち込む見込み。	小売業 ガソリンスタンド
	今後、光熱費の上昇に加え、材料費等仕入単価もさらに上昇すると思われ先が予測できない不安がある。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)